

第2回 大橋川景観アドバイザー会議資料

(『大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針』作成の流れ)

平成25年5月9日

国土交通省 出雲河川事務所

第1回大橋川景観アドバイザー会議の振り返りと課題解決に向けて

第1回大橋川景観アドバイザー会議の振り返り

★第1回会議でいただいたご意見

(全般)

- 環境に配慮することを念頭に置く必要がある
- 20~30年後のまちづくり計画を踏まえた話し合い、調整が必要
- 市民、観光客等の意見を伺う仕組みが必要（ワークショップを開くべき）
- 利活用に関する情報を踏まえて議論することが必要（水上交通も視野に）

(ゾーン区分)

- 歴史の積み重ねを踏まえて考えていく必要がある
- 背後施設を含めて、回遊性を持たせることが必要（人の流れを考える）
- 現在、8区間に分けているが、一つの区間の中でも特性が変わってくることも踏まえて指針を作ってはどうか。
- 水辺との関わり方を念頭に置く必要がある
- 護岸の素材について、いくつか実物を見て、触ってみたい。

★景観設計指針の策定に向けての課題

- 自然環境への配慮との整合性
- まちづくり計画との整合性
- 区間の見直しも含めた指針の策定
- 利活用に関する情報を踏まえる
- 人の流れを考えた施設整備
- 水辺との関わりを踏まえた施設整備
- 将来の維持管理も踏まえたコスト管理

★課題の解決方針

- 区間全体の話し、水辺の利活用を踏まえたスポットの発掘、まちづくりとの整合性等の意見を踏まえ
- ①指針は全体的の話しから、スポット的話しへ段階的に進めていく。
 - ②水辺の関わりや魅力的なスポットを発掘するため、市民を交えたワークショップを開催する。

『大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針』作成の流れ

＜基本的な考え方＞

- 指針は、段階的にレベルアップを図る(区間全体→スポット的)
- 景観スポットや利活用など市民の意見を伺い、指針に反映させる
- 地元協議等の進捗に応じ、更に具体的な整備内容の充実を図る

『指針レベル1』:区間別に全体的な方針を整理(全区間で作成)

区間毎の景観設計方針における施設配置や配慮事項を整理

- 『大橋川周辺まちづくり基本計画』『大橋川景観形成計画』等を踏まえ
区間毎の護岸整備や施設配置イメージを整理(区間の見直しも含めて議論)
- 区間全体イメージに基づく全体的な護岸等材料選定方針、その他配慮事項等を整理

景観設計や施設配置の
ポイントを区間毎に把握
し設計指針に反映
(WSの開催など)

構造設計・地元協議等を実施
施設配置計画の具体化

レベル1の
見直し

『指針レベル2』:スポット的な施設配置を含めた整理(先行事例:向島地区、竹矢矢田地区)

構造設計や地元協議等を踏まえ具体的な施設配置等、素材を追加

- 具体的な設計等を踏まえた施設形状・配置計画の精度向上と配慮事項の追加
(例: 付属施設の追加、植栽など河川管理施設以外の配置)
- コスト面、維持管理面等を踏まえた構造物毎の具体的な素材の選定方針を追加
- 形状、素材、利活用を踏まえた具体的な施工上の留意点の整理

＜例＞
魅力・景観スポット
水辺との関わり
(利活用)
地域資源の新たな発掘

指針に基づき施工

レベル2の
見直し

『指針レベル3』:施工後又は施工時を想定

施工時(又は完成時)の状況に伴う
施工上の留意点の追加・見直し 等(必要に応じて)

レベル1 区間毎の景観設計方針における施設配置イメージ

区間①：くにびき大橋～五川台流点（南岸）

景観整備目標

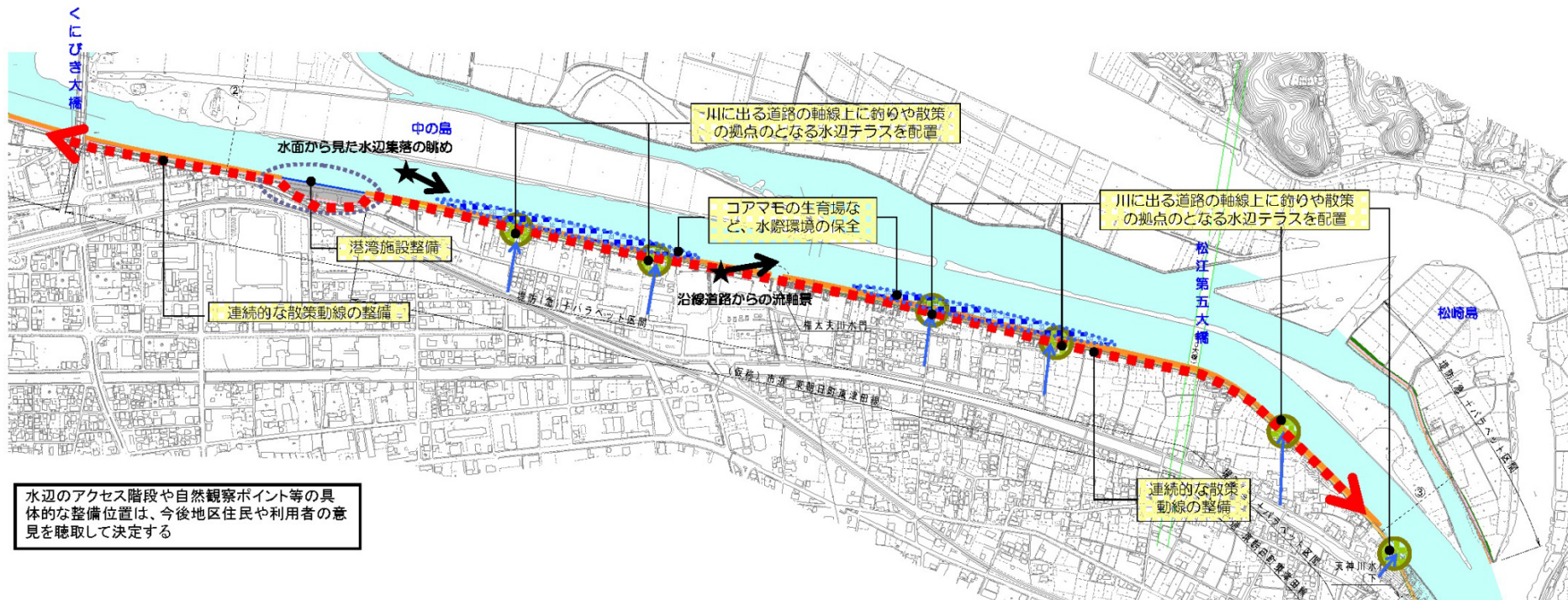
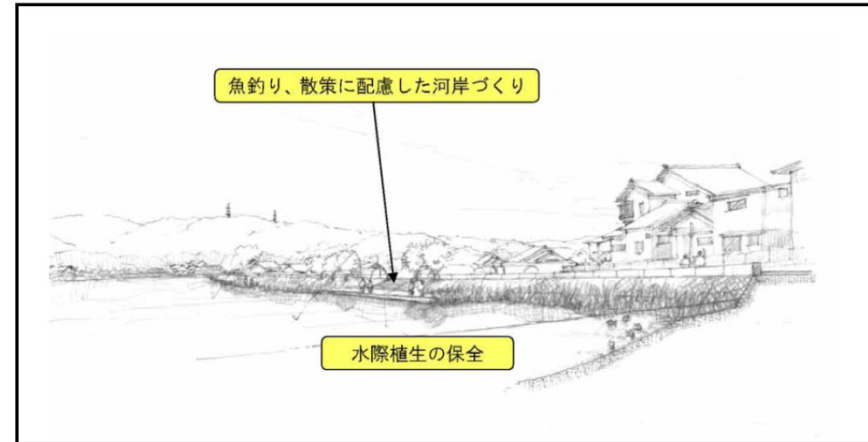
- ・背後に住む人と水とのかわりや、のびやかで様々な表情を見ることができる自然風景、水辺で楽しめるような景観整備を行う。

景観整備の方向性

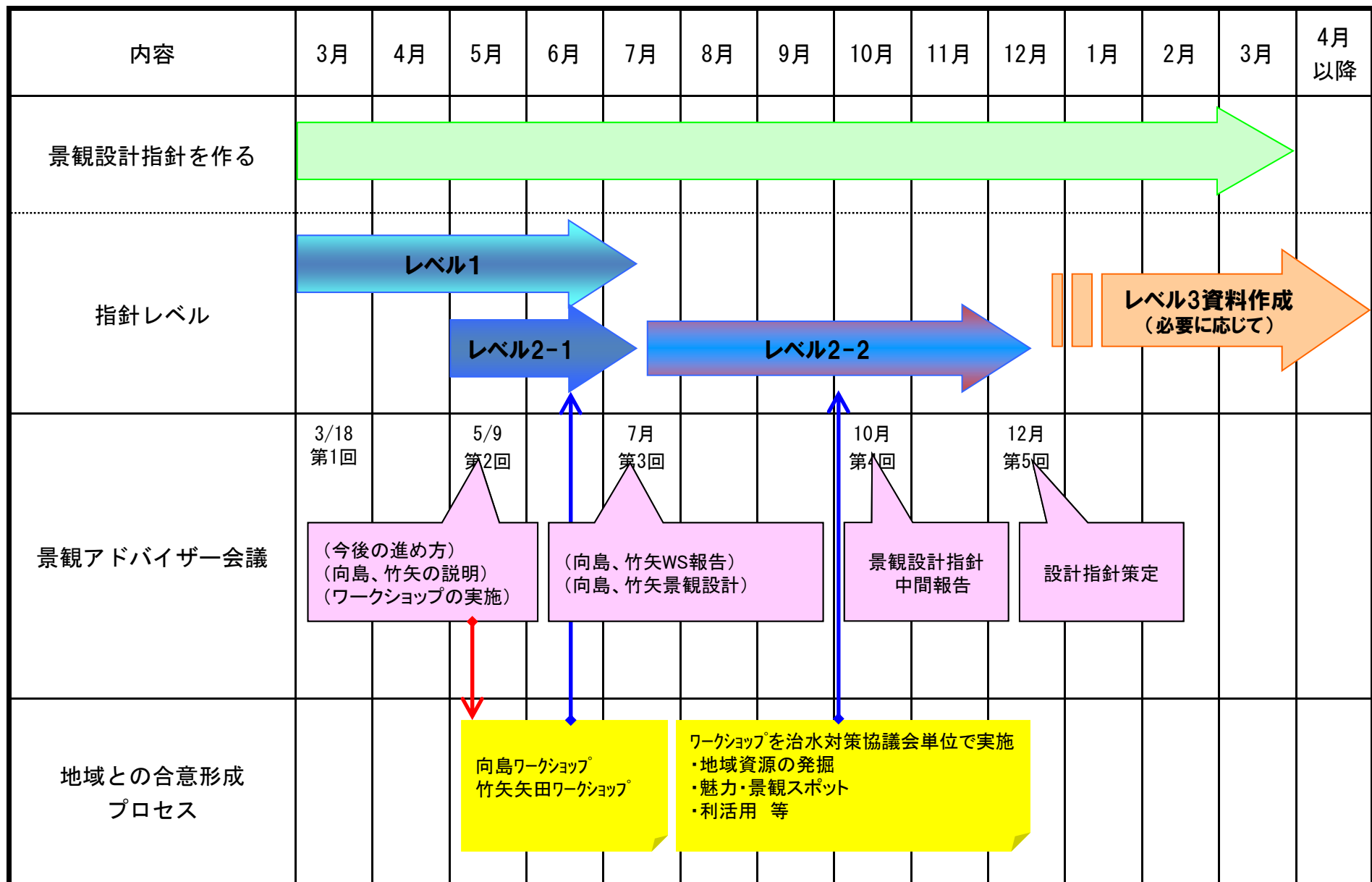
- ・現状の動線、眺望場所を保全する。
- ・魚釣り、散策など水際利用を重視しつつ、自然豊かな水辺環境の再生を図る。
- ・水際に深場をつくらず、自然を活かした計画とする。
- ・日常生活との結びつきを感じさせる、現状の水辺景観の保全に配慮する。



整備イメージ例



『大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針』作成の流れ



第1回大橋川景観アドバイザー会議の振り返りと課題解決に向けて

第1回大橋川景観アドバイザー会議の振り返り

★第1回会議でいただいたご意見

(全般)

- 環境に配慮することを念頭に置く必要がある
- 20~30年後のまちづくり計画を踏まえた話し合い、調整が必要
- 市民、観光客等の意見を伺う仕組みが必要（ワークショップを開くべき）
- 利活用に関する情報を踏まえて議論することが必要（水上交通も視野に）

(ゾーン区分)

- 歴史の積み重ねを踏まえて考えていく必要がある
- 背後施設を含めて、回遊性を持たせることが必要（人の流れを考える）
- 現在、8区間に分けているが、一つの区間の中でも特性が変わってくることも踏まえて指針を作ってはどうか。
- 水辺との関わり方を念頭に置く必要がある
- 護岸の素材について、いくつか実物を見て、触ってみたい。

★景観設計指針の策定に向けての課題

- 自然環境への配慮との整合性
- まちづくり計画との整合性
- 区間の見直しも含めた指針の策定
- 利活用に関する情報を踏まえる
- 人の流れを考えた施設整備
- 水辺との関わりを踏まえた施設整備
- 将来の維持管理も踏まえたコスト管理

★課題の解決方針

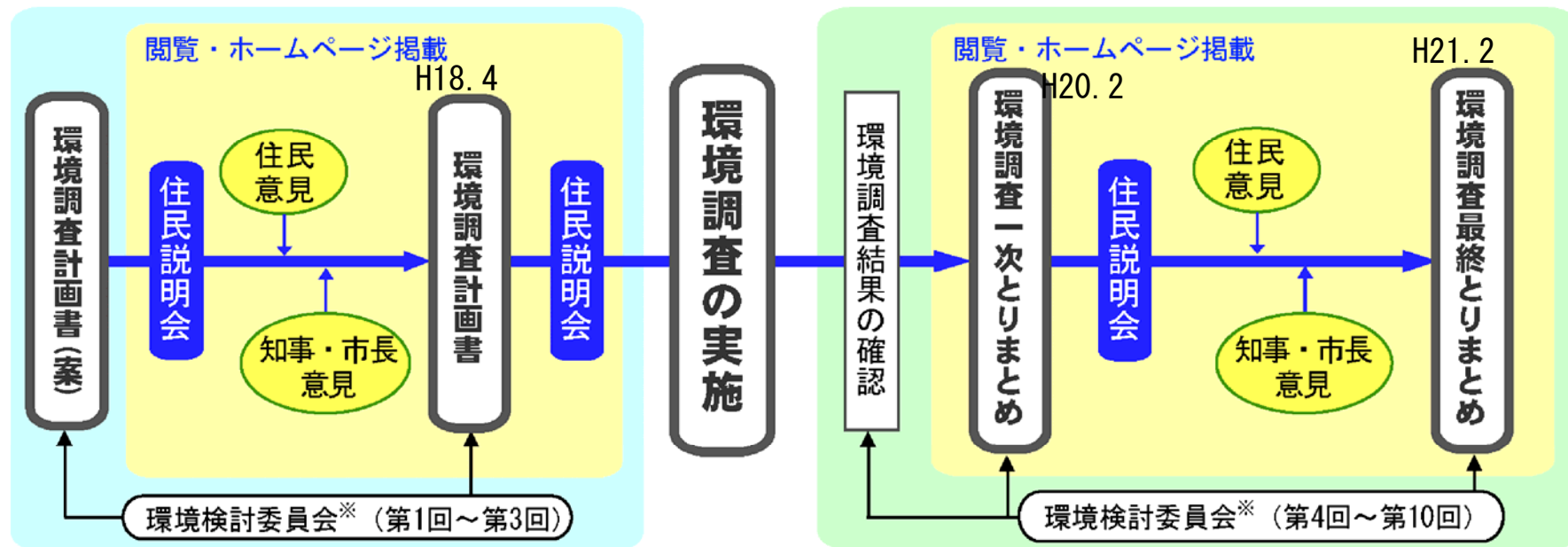
- 区間全体の話し、水辺の利活用を踏まえたスポットの発掘、まちづくりとの整合性等の意見を踏まえ
- ①指針は全体的の話しから、スポット的話しへ段階的に進めていく。
 - ②水辺の関わりや魅力的なスポットを発掘するため、市民を交えたワークショップを開催する。

**大橋川改修事業
環境調査
最終とりまとめ**

**平成21年2月
出雲河川事務所**

大橋川環境調査の進め方

環境調査の流れ



※大橋川改修に関する環境検討委員会

※大橋川改修に関する環境検討委員会

- 水環境や生物の科学的データと専門的知識に基づく客観的な評価を行うことが重要であるため、技術的助言や指導を行うものです。



宍道湖～大橋川～中海の塩分環境

● 宍道湖と中海は大橋川を挟み塩分が異なります。

宍道湖

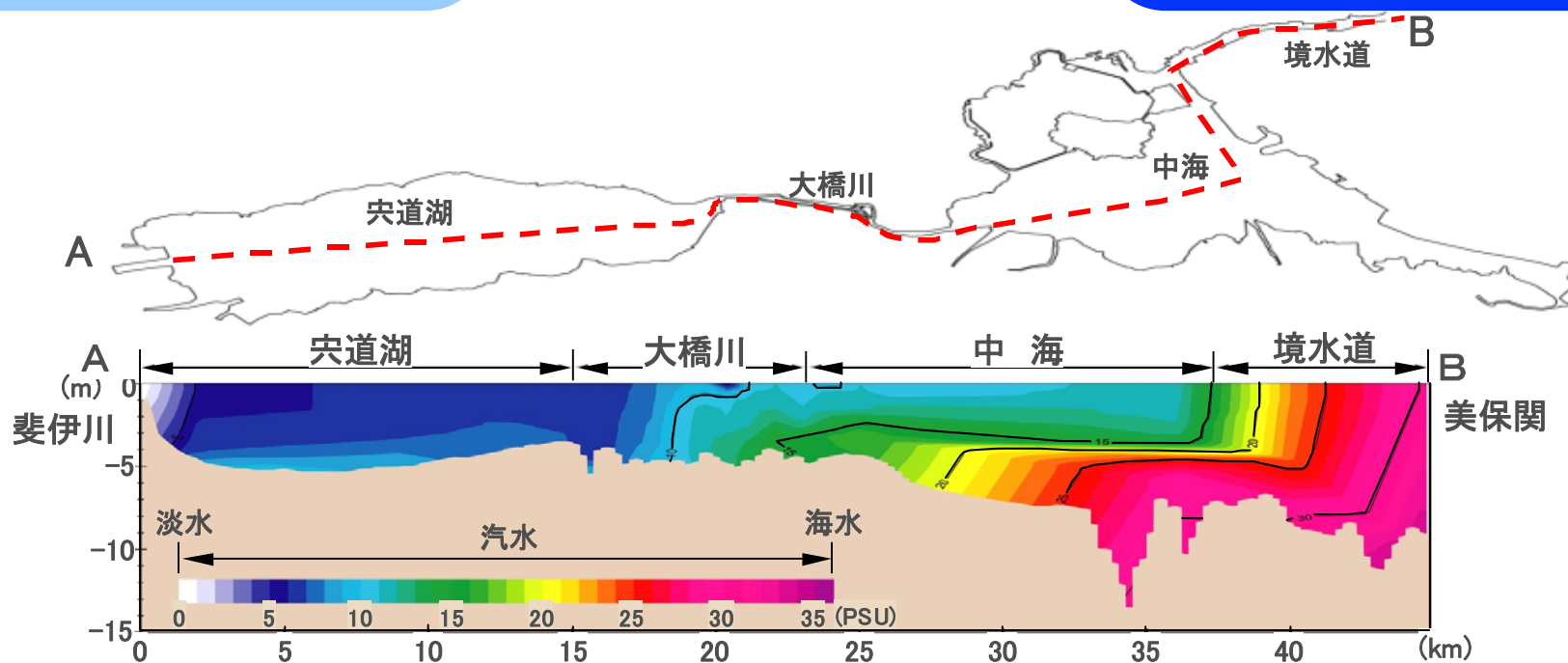
- ・塩分は平均すると海水の1/10です
- ・底層については、高塩分水の流入により塩分が高くなることがあります

大橋川を挟んで異なる特徴

塩分に大きな違い

中海

- ・塩分は平均すると海水の1/2です
- ・年間を通じて塩分躍層が形成されます



塩分の一般的状況

(H12.9.30観測データ)

宍道湖～大橋川～中海における動物・植物の確認状況

●現地調査の実施により、新しく多くの生物が確認されました。

分類群	全体の確認種数		水域別の確認種数（今回調査後）			
	今回調査後	計画書公表時	宍道湖	大橋川	中海	境水道
哺乳類	26 ←	26	15	13	26	—
鳥類	259 ⁺⁴ ←	255	224	114	217	31
爬虫類	13 ←	13	5	9	12	—
両生類	15 ←	15	6	7	12	—
魚類	192 ⁺¹⁵ ←	177	100	74	156	112
陸上昆虫類 陸産貝類	2,447 ⁺²⁹⁸ ←	2,149	1,356	1,576	1,614	4
底生動物	701 ⁺²⁷⁶ ←	425	348	343	642	339
陸上植物	718 ⁺¹⁶⁴ ←	554	454	590	388	150
水生植物	235 ⁺⁴⁹ ←	186	76	112	128	59

注1) 全体及び水域別の確認種数は、現地調査及び文献調査のいずれも含む数字です。

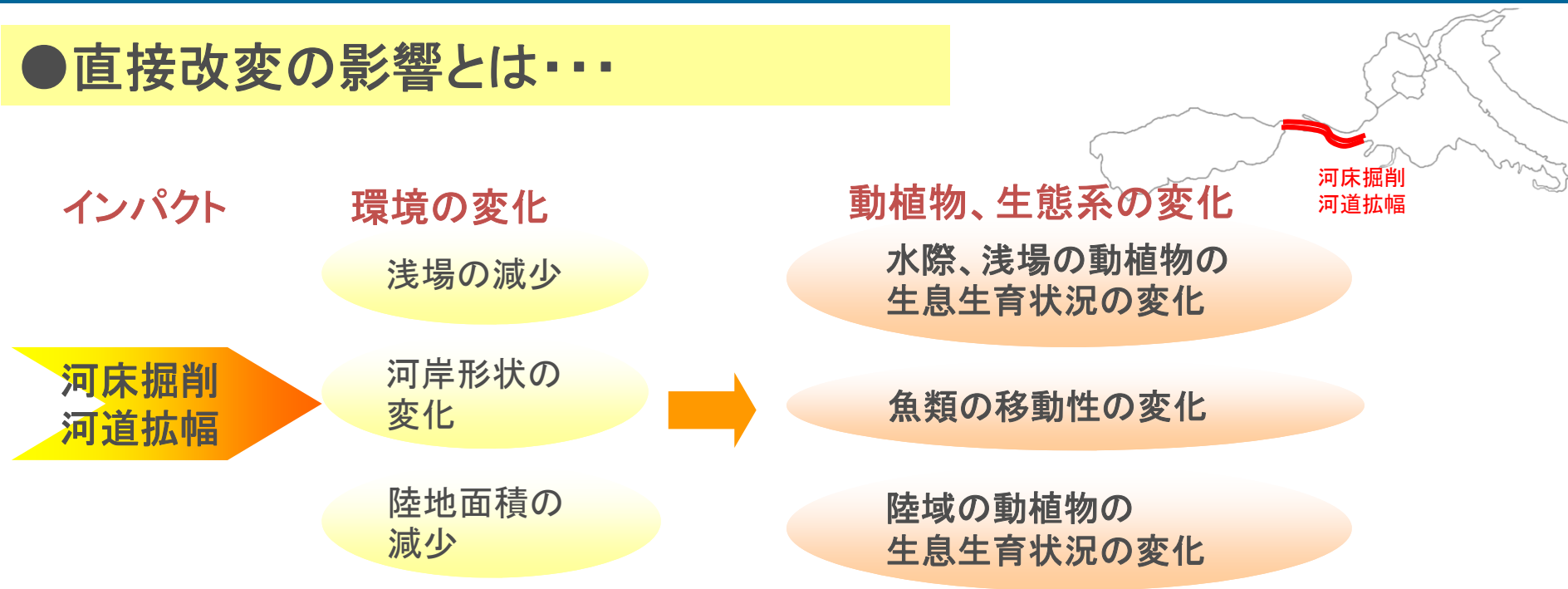
注2) 境水道の「—」は本調査において現地調査の未実施及び文献による確認情報がないことを示します。

注3) 計画書公表時（H18年4月）の確認種数は計画書記載の数字と異なりますが、これは国土交通省が実施している『河川水辺の国勢調査』の種数カウント方式に基づいて計数し直したことによるものです。

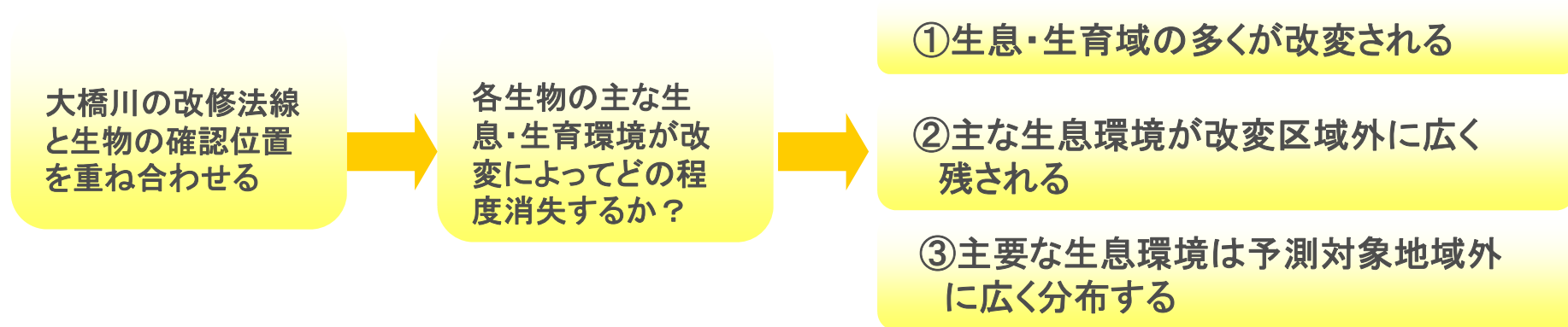
注4) 水域別の確認種数については、複数の水域で確認されている種も多数いるため、これらを合計した数字と全体の確認種数の数字は異なります。

事業の影響検討方法【直接改変】

●直接改変の影響とは・・・

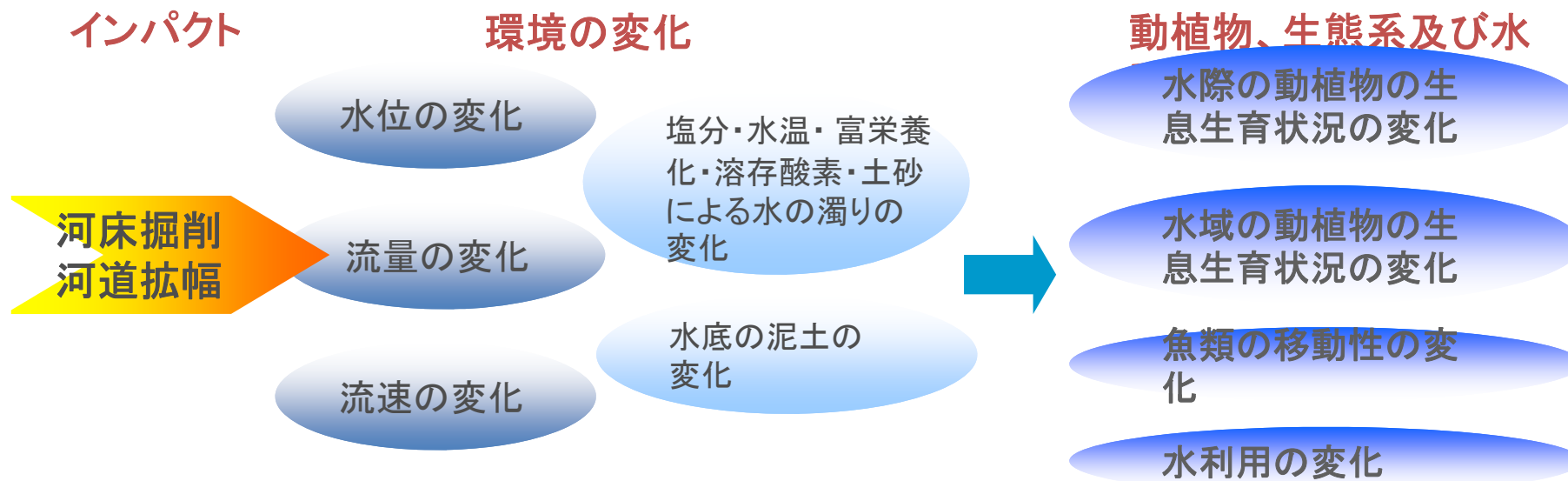


●直接改変の予測の考え方



事業の影響検討方法【直接改変以外】

●直接改変以外の影響とは・・・



●直接改変以外の予測の考え方

シミュレーションによる水環境（水質、底質、水位）の予測

現況と比較して、改修後の水環境の変化の程度は小さいor大きい

生物の生息・生育場としての変化の程度は小さいor大きい

水環境の予測結果のまとめ

水質

塩分

●大橋川改修事業により宍道湖No.3(湖心)上層1.3psu、中海湖心上層で0.5psu上昇すると予測されます。

水温

●大橋川改修事業による水温の変化は小さいと考えられます。

富栄養化項目

●大橋川改修事業による富栄養化項目の変化は小さいと考えられます。

溶存酸素

●大橋川改修事業による溶存酸素の変化は小さいと考えられます。

土砂による水の濁り

●大橋川改修事業による土砂による水の濁りの変化は小さいと考えられます。

底質

大橋川内

●大橋川改修事業により現状より粒の小さい土砂が堆積し続けることはないと考えられます。また、水質予測結果から、底質性状の変化は小さいと考えられます。

中海・宍道湖

●大橋川改修事業による湖内流速(年平均)の変化は小さいと予測され、底質の変化は小さいと考えられます。また、水質予測結果から、底質性状の変化は小さいと考えられます。

水利用

水利用の状況

●大橋川改修事業による水利用の状況の変化は想定されない、または小さいと考えられます。

地下水の状況

●大橋川改修事業による地下水の状況の変化は小さいと考えられます。

動物の重要な種の予測結果【直接改変】

-大橋川-

- 大橋川改修事業による河道拡幅によって、河岸部のヨシ群落の一部（生育面積の34.4%）や河口左岸の浅場が消失することにより、直接改変の予測対象種74種のうち、河口左岸に生息するヒトハリザトウムシ、ヨシ群落を主な生息環境とするウデワユミアシサシガメ、ヨシダカワザンショウガイ、ムシヤドリカワザンショウガイの生息状況が変化します。

ヒトハリザトウムシ



植生の根元や岩陰などの隠れ場所のある海岸等に生息

ウデワユミアシサシガメ



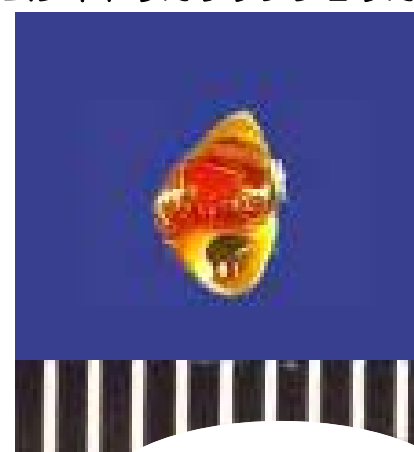
岸辺のヨシ帯で小昆虫を捕食

ヨシダカワザンショウガイ



ヨシ帯の礫下や漂着物の下などに生息

ムシヤドリカワザンショウガイ



ヨシ群落内の泥上や枯れ茎のかたまりの下等に多く生息

植物の重要な種及び群落の予測結果【直接改変】

-大橋川-

- 大橋川改修事業による河道拡幅によって、直接改変の予測対象種13種3群落のうち、河岸部に分布するコアマモ及びオオクグ群落と、水田に生育するスズメハコベ、ヒメシロアサザ、カワヂシャの生育確認箇所の一部が消失します。



環境保全措置の実施候補箇所

環境保全措置の実施箇所については、大橋川中下流を中心に専門家の指導を仰ぎ
詳細な位置を決めていきます。

- 大橋川湿性池（剣先川左岸側）
ビオトープ池の造成候補範囲
（ヒメシロアサザ、スズメハコベ、カワチシャ）

- 中海湖岸
オオクグ群落の移植候補地



- 大橋川湿性池（中の島北岸側）
ヨシ※1の移植候補範囲

- 大橋川河岸部（両岸）
ヨシ※1・コアマモ※2の移植候補範囲

※1 ヨシの環境保全措置の実施範囲は、動物の重要な種であるウデワユミアシサシガメ、ムシヤドリカワザンショウガイ、ヨシダカワザンショウガイの環境保全措置の実施範囲を含みます。

※河岸部の護岸はヒトハリザトウムシの隠れ場所となる形状や工法等を工夫して設置します。

※2 植物の重要な種及び生態系の典型性注目種としてのコアマモの環境保全措置範囲を示しています。

【大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針 目次構成(案)】

1. 本指針の位置づけ
2. 河川構造物等の整備に係わる景観設計の課題と方針
3. ゾーン区分および区間区分
4. 各区間の現状(区間毎に整理)
 - 4-1 区間の景観特性
 - 4-2 主な景観要素の状況
 - 4-3 区間の護岸状況と視覚的特性
 - 4-4 区間の自然環境と水辺利用の状況
5. 各区間の景観設計目標(区間毎に整理)

『大橋川景観形成計画』『大橋川周辺まちづくり基本計画』『大橋川沿川の景観形成に関する整備方針』を基に整理

6. 各区間の景観設計方針(区間毎に整理)

6-1 護岸等材料選定方針

護岸および護岸と一体となり整備を行う天端舗装や階段等の素材(材質、明度・彩度、テクスチャ等)の選定方針をとりまとめる
大橋川景観形成計画における「区間別の景観形成基準」に基づき、素材の強度、コスト、安定的かつ長期的な材料調達の可能性、
歴史・文化性、地域性等踏まえ検討する
護岸材料の例) 自然石〔地元産石材(烏石・来待石等)、その他〕、コンクリートブロック等

6-2 施工上の留意点

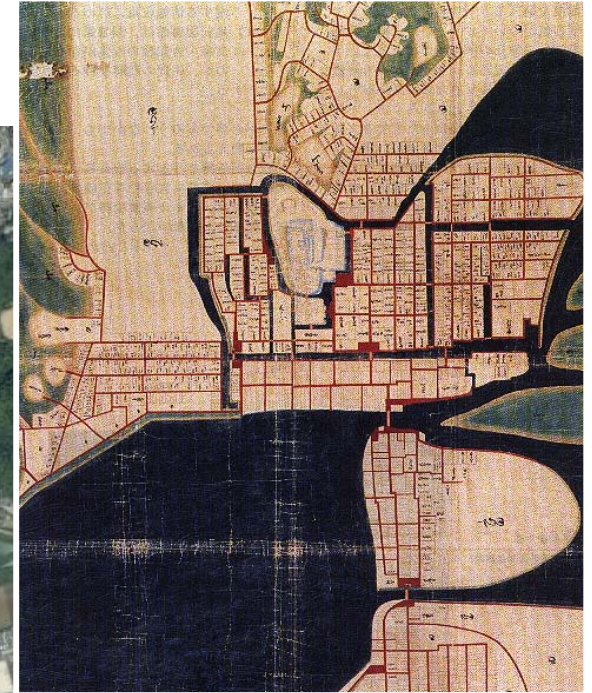
護岸の積み方、護岸天端処理など構造端部の施工時の留意点についてとりまとめる

6-3 その他配慮事項

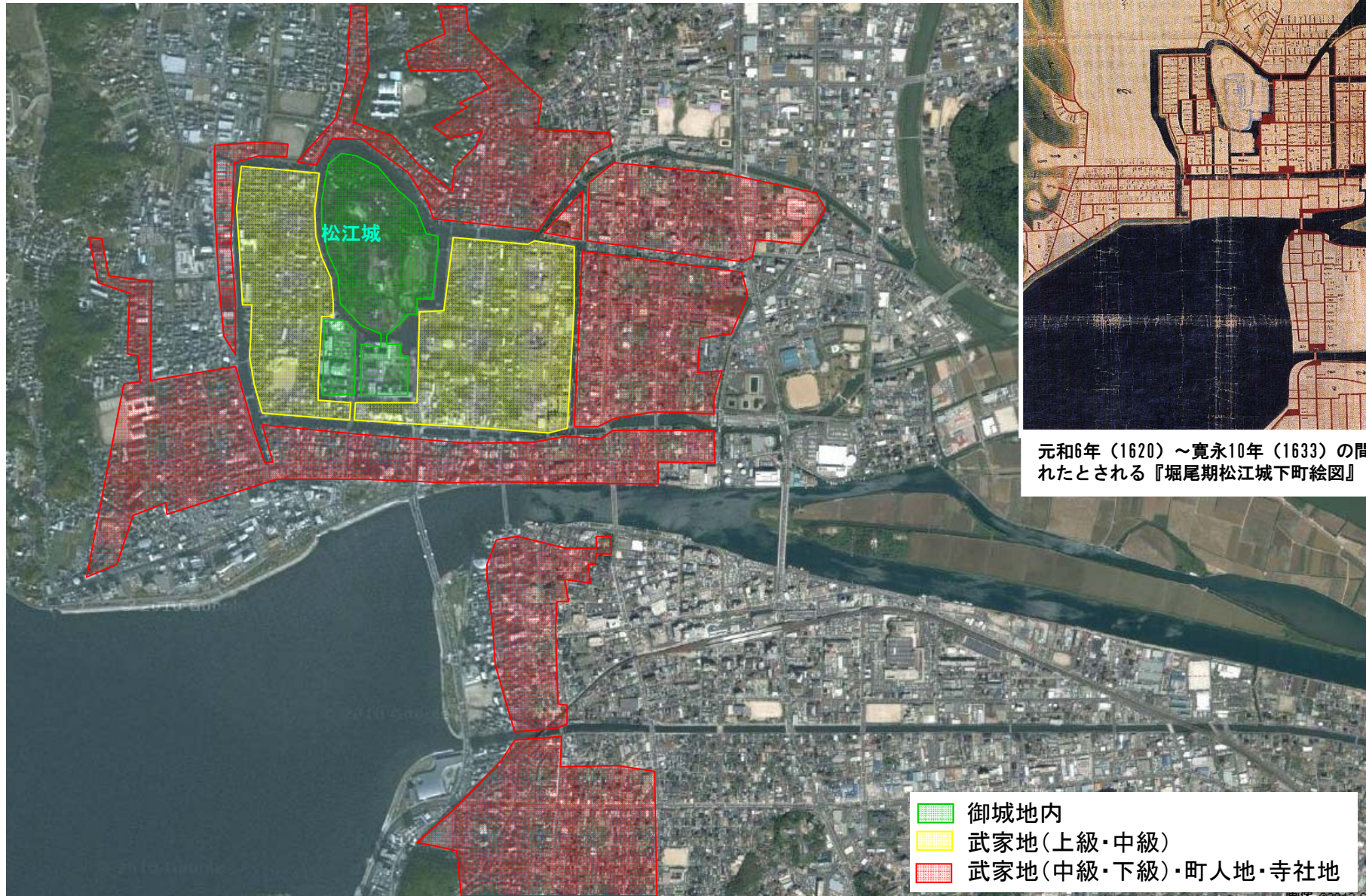
植栽や転落防止柵等の安全施設など、河川管理施設以外の設置に当たり景観上配慮すべき事項についてとりまとめる

＜参考＞江戸初期の松江城下町

江戸時代の松江城下町は、松江城周辺の武家屋敷等と大橋川を挟んで南岸に商人・町人が住む範囲が存在し、その周辺は沼地や田畑が広がっていた。



元和6年（1620）～寛永10年（1633）の間に書かれたとされる『堀尾期松江城下町絵図』



- 御城地内
- 武家地(上級・中級)
- 武家地(中級・下級)・町人地・寺社地